

人 チーム 制度



育休なんかいない! ? 年度末の第二子誕生と育児参加

日本工営株式会社 諏佐晃一さん

今回ご紹介するのは日本工営(株)で環境アセスメントの仕事に携わる諏佐晃一さん。2017年1月に第二子となる長男が誕生され、現在、3歳と0歳の2人のお子さんを育てていらっしゃいます。

これまでの経歴を簡単に教えてください。

大学では生態学を専攻しトンボの生態を研究していました。自然環境の保全に携わる仕事がしたいと考え、日本工営(株)に入社しました。

入社後の5年間は本社の環境部と名古屋支店で環境アセスメント等の仕事に携わった後、河川砂防部に1年間在籍し、河川構造物の設計に関する仕事を経験しました。その後、地元である新潟支店勤務を希望し、地域限定社員として現部署に異動。現在は、河川の環境アセスメントに関する仕事を担当しています。

プライベートでは、新潟へ赴任後に結婚、長女が誕生、2017年1月に長男が誕生しました。

第二子誕生にあたり育児に対する姿勢に変化はありましたか?

上の子が生まれたときは夏でしたが現場が立て込んで出産に立ち会うことができず、その後も深夜の帰宅が続いて育児は妻に任せきりでした。第二子誕生にあたっては、上の子もまだ小さく(イヤイヤ期の真っ盛り)、育児の負担は確実に大きくなっています。出産予定は1月で年度末と重なりますが、今回こそはしっかり育児に関わりたいという思いがありました。

課題は、ただでさえ手を焼いている長女の面倒をどうみていくか、年度末の繁忙期にどれだけ育児に関わる時間を確保できるかということでした。

プロフィール

氏名 : 諏佐 晃一 (36)
所属 : 新潟支店 技術部 環境計画グループ
勤続年数 : 12年目
資格 : 技術士(建設)
居住地 : 新潟県新潟市
家族構成 : 妻(主婦) / 長女(3) / 長男(0)
勤務状況 : 通常勤務

経歴

| | |
|----------|-------------------|
| 2006年04月 | 日本工営(株)に入社、環境部に配属 |
| 2008年04月 | 名古屋支店技術部に異動 |
| 2011年04月 | 河川砂防部に異動 |
| 2012年04月 | 新潟支店技術部に異動 |
| 2013年03月 | 技術士(建設)取得 |
| 2013年08月 | 結婚 |
| 2014年08月 | 長女誕生 |
| 2017年01月 | 長男誕生 |

年度末の繁忙期にどのような形で仕事と育児に取り組みましたか?

長女は、当時2歳で施設には預けていませんでしたが、新潟市の緊急預かり事業(1カ月あたり上限14日間の保育を受けられる制度)を産前11月から産後3月まで利用することにしました。また、近くに住む妻の両親にもサポートしてもらいました。

仕事については、当初、出産後1ヶ月程度の育休を希望しました。しかし、やはりそこは年度末で、所属する課の人数(社員3人)を踏まえると消化体制が厳しく、本社・他支店からのフォローをお願いすることも時期的に難しい状況がわかりました。

妻に長期の育休取得は難しいことを相談したところ、「育休期間を減らして何日間か連続で休めたとしても、その後に忙しくて帰宅が遅くなるようでは、その後の負担が大きくなってしまいます。それよりは、**1~2ヶ月のあいだ早い時間に帰宅でき、必要に応じて休みをとれるほうが助かる。**」という意見をもらいました。

そこで、上司に相談し、出産日や上の子が保育園を利用できない日など必要なときに休暇を取得し、それ以外の日は会社のフレックスタイム制度による早退ができるように配慮していただきました。また、業務の負担軽減のため、アルバイト増員、担当業務の絞込み、プロポーザルの担当案件の絞込みをしていただき、集中して取り組むことができました。

取り組んだ結果はどうでしたか?

おかげ様で、出産、退院などの節目に家族とともに過ごすことができ、日々の保育園の送迎や子どもの風呂の世話も担当することができました。育休という形ではありませんでした。継続的に育児に関わることができたと思います。部署の皆様にはいろいろとご配慮いただき、大変感謝しています。



いってきま〜す!

仕事のほうは最終的に何とかやり終えることができたものの、定時出社と早めの帰宅では時間が足りない時がありました。社内には在宅勤務制度があるものの、利用資格や作業時間帯に制限があります。家族が寝ている夜や朝の時間帯にも作業可能とするなど状況に応じて柔軟に対応できるようになればさらに良いと思います。

最後に、建コンで働く皆さんに伝えたいことはありますか?

男性の育児参加については部署内でも可能な限りフォローしたいという雰囲気がありましたが、一方で年度末は仕方ないという現実(諦め!?)がありました。男性の育休取得がもっと当たり前になり、いずれ年度末を気にしない家族計画を立てられるようになるといいですね。社内的・業界的な長時間労働の削減に期待しています!